

S22-6 Choosing Wisely で共有意思決定を促進する

○北澤 京子¹

¹京都薬大

Choosing Wisely は、”医療者と患者との対話を促進し、科学的根拠に裏づけられ、既に行われた医療行為と重複せず、害が少なく、真に必要な医療を患者が選択できるよう支援することをめざす国際的なキャンペーン活動だ。学会ごとに、しなくてもよい (Don't) 医療行為を「5つのリスト」にまとめた上で、さらに患者・市民向けに内容を平易に解説した資料を作成する。

米国医療薬剤師会の「5つのリスト」の1つに「処方内容を包括的にレビューすることなく5剤以上を処方しない」という推奨がある。薬剤師には、患者に処方されている薬 (OTC やサプリメントも含む) を確認し、中止できる薬がないかを定期的にチェックすることが求められる。

薬を飲むことによりどんな益 (と害) が、どのくらいの頻度で生じそうなのかが分からなければ、患者は薬を飲むかどうかの判断はできないはずである。Choosing Wisely を通じて医療者と患者のコミュニケーションが深まり、ともに納得できる意思決定をすること (共有意思決定) が進むことが期待される。